

今回のトレーニングレポート通信は単位数誤認の事例と
処方削除の事例と処方変更の事例です！

No.18
2023年10月号

事例①：インスリン注射の単位数誤認の事例

処方

69歳 男性 内科

ルムジェブ®注ミリオペン 1日3回 朝7単位、昼7単位 タ4単位
トレシーバ®注フレックスタッチ 1日1回 タ5単位

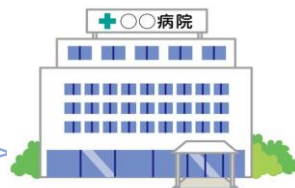
☞インスリンの単位数の誤認あり。

保険薬局より

報告内容	☐ 薬剤継続の必要性について(ポリファーマシー等)	☐ 服薬状況
	☐ リフィル処方箋 ☒ 副作用(重篤でないもの)	☐ 他院処方(重複、相互作用)
	☐ 抗がん剤 (☐ 経口 ☐ 注射)	☐ オピオイド
	☐ 手 枝 (☐ 自己注射 ☐ 吸入薬 ☐ その他)	☐ その他 ()
情報提供・提案事項		
投薬時にインスリン注射の単位数について確認したところ、誤認していたことが判明しました。 ルムジェブ®注ミリオペン 朝7単位、昼7単位、タ4単位のところ、タも7単位使用し、 トレシーバ®注フレックスタッチではタ5単位のところ 7単位使用していました。 いつから誤った量を使用されているかは不明ですが、この度より指示された量を守って使用 していただくため、今後の検査値に影響があるかもしれないと考えご報告させていただきます。		

薬剤部より

情報提供ありがとうございます。
内容を確認し、カルテ記載で主治医に報告しました。



その後の経過

HbA1Cは2か月前7.8%、報告月7.5%、3か月後7.3%と大きな変化無く推移。

インスリン注射の単位数を誤認していた事例でした。誤った単位数を注射していた場合は
低血糖症状などが現れる可能性もあり、症状の確認をお願いします。

疑義照会簡素化プロトコルを用いて残薬調節を行った場合は、トレーシングレポートに理由を記載し当院へ情報提供するようお願いいたします。

事例③：下痢が改善しないため薬剤変更となった事例

処方

76歳 男性 外科

ウルソデオキシコール酸錠100mg

アセトアミノフェン錠200mg

オキシコドン塩酸塩水和物徐放錠5mg

酪酸菌錠

1回1錠 1日3回 毎食後

1回2錠 1日3回 毎食後

1回1錠 1日2回 朝夕食後

1回2錠 1日3回 毎食後

👉 酪酸菌製剤を内服しているが下痢が続いている。

保険薬局より

報告内容	☒ 薬剤継続の必要性について(ポリファーマシー等)	☐ 服薬状況
	☐ リフィル処方箋 ☐ 副作用(重篤でないもの)	☐ 他院処方(重複、相互作用)
	☐ 抗がん剤 (☐ 経口 ☐ 注射)	☐ オピオイド
	☐ 手 技 (☐ 自己注射 ☐ 吸入薬 ☐ その他)	☐ その他 ()

情報提供・提案事項

本人より、下痢の訴えが継続しております。オキシコドンを服用されている影響もあると思われますが、2カ月前より酪酸菌製剤を服用開始するも期待される効果が得られていない可能性があります。

ビフィズス菌の検討も考慮して頂ければと思います。

薬剤部より

情報提供ありがとうございます。内容を確認し、カルテ記載で主治医へ報告しました。



その後の経過

次回受診時、ビフィズス菌錠 1回1錠 1日3回 毎食後へ変更。

1カ月後、下痢はやや改善したがまだ症状は続いていたため、タンニン酸アルブミン 1回1g 1日3回 毎食後の処方が追加となり、症状は改善した。

患者さんの症状に合わせて薬剤が変更された事例でした。トレーシングレポートで情報提供があったことにより患者さんの症状改善に繋がりました。